

事例Ⅲ

問題or課題	対策or原因	効果	年度
良品率が大幅に上がった理由	①製造設備の改善②生産管理の改善		H26
収益改善	①全社的な生産計画②管理項目の追加③仕入れや配送の一括化④歩留りの向上⑤作業員の流動化	コスト削減	H28
クレームの改善	①管理、保守、作業の標準化②OJT③作業員の流動化		H28
短納期化の対応策	①全社的な生産計画を短サイクル②加工順のルール化③SLP④外段取り化	リードタイムの短縮化	H27
生産管理のIT化 納期管理の方法	①DB化、共有化、一元管理化②生産統制を行う③全社的な生産計画		H27
生産管理のIT化 情報	①受注情報②生産統制情報③在庫情報④生産計画		H27
業務移管 生産計画の改革	①生産計画の短サイクル化②稼働率向上③短納期化対応④小ロット化対応		H26
業務移管 資材調達計画	①発注サイクルの短縮②需要予測の向上と在庫の適正化③原材料費削減		H26
X社以外の販路開拓	①営業体制の強化②X社と競合しない国内外のメーカー		H26
業務効率のため、共有化が必要な情報	①設計変更情報②CAD③受注物件④設計要素⑤進捗状況		H25
Y社との共同事業の失敗の要因	①ニーズ調査不足②価格競争③競合調査不足④強みを活かさない		H25
今後の新規事業の留意点	①ニーズの把握②強みを活用③提案強化④シナジーのある分野に進出⑤競合の把握		H25
直面している課題	①在庫の最適化②ロットサイズの最適化③リードタイム短縮		H24
その対応策	①生産計画の短サイクル化②小ロット化③作業の標準化		H24
収益性の向上	①ニーズを把握した高付加価値の商品を販路開拓②段取り作業の短縮と在庫の適正化	販売数向上とコスト削減	H24
生産性向上の課題	①専任担当制の是正②技術情報の標準化③顧客との情報共有		H29
生産性向上の対策	①OJTによる多能工化②マニュアル化しDBで一元管理③3DCADを共有	余力の創出	H29
新規事業の高付加価値化への方策	①顧客ニーズを反映した開発②生産性向上③販路開拓④アフターサービスの充実		H29
生産計画の問題	①生産ロットサイズが大きく在庫が過大②生産計画が週次で修正がない		H30
生産計画の対応策	①受注量と在庫量を加味して生産②生産計画を短サイクル化③生産統制	在庫コストの削減	H30
高付加価値化への戦略	①共同開発など工業団地との連携②強みを活用③顧客ニーズに繋げる		H30
生産性向上の対策	①作業の標準化とOJTによる多能工化②SLPによる最適なレイアウト③最適な設備の導入		R1
後工程引取方式への生産管理	①全社的な生産計画を短サイクル化②発注管理方式の見直しと生産統制③DBで一元管理し共有	後工程引取方式に対応	R1

納期遅延の問題点(営業)	①仕様変更等顧客とのやり取りに時間を要し、制作期間を圧迫②業務範囲が広く負担感が大きい		R2
納期遅延の対策(営業)	①3DCADの共有で顧客との打ち合わせを短縮②外注し余力を生む		R2
納期遅延の問題点(製造)	①技術力の差がある②作業の見積もりがバラバラ③生産計画作成のサイクルが長い④モノの移動が多い		R2
納期遅延の対策(製造)	①OJT②作業の標準化③生産計画の短サイクル化④SLPIによるレイアウト最適化		R2
生産性向上の2つの課題	①<仕組>生産計画を改善し、在庫を最適化する②<人>負荷の平準化と技術継承		R3
短納期化の課題	①設計の時間短縮と混乱の防止②技術継承		R4
短納期化の対応	①3DCADの共有②設計の専任化③段取り時間の短縮		R4
小ロット化への対応策	①全社的な生産計画の短サイクル化②受注量に合わせた生産③段取り時間の短縮④生産統制の強化		R4
生産のIT化 情報	①受発注、納期②生産計画③在庫管理④生産統制		R4
生産のIT化 社内活動	①情報をDB化し一元管理②リアルタイムで共有③データの標準化④教育の実施		R4
生産性向上の対応策	①作業のマニュアル化と標準化②OJTによる多能工化③作業のDB化と共有④全社的な生産計画を短サイクル化⑤作業の自動化		
収益低下への対策	①生産計画の短サイクル化②生産統制③在庫管理④情報共有		
商品開発の方法	①強みの活用②弱みの克服③効果		
■留意点			
や△について述べよで、△についての記載忘れる			
効果に字数を割きすぎる。20字程度がベスト			
原因により問題が生じ結果となる 例.深酒により起きられなかったため、遅刻した			
IT化 情報は簡潔に、社内活動は具体的に			
拡大中の 需要を取り込みと記載 拡大がポイント			
戦略では営業のことも書くケース多い			